

## 学友会上海支部（通称・長江会）等中国在住卒業生との懇談会

（福田勝幸理事長 挨拶文）

皆さん、今日は。

昨年の6月から理事長を務めております福田です。

本日は、この様な交流の機会を頂き関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

また、長江会の皆さんを始め中国在住の卒業生の皆さんには、「海外で公私の業務に従事する」という建学の理念を実践されておられることに心より敬意を表するとともに、それぞれのお立場で長年にわたり、中国留学の学生に対しましてご指導とご支援を頂きましたことに法人を代表して、改めて感謝を申し上げる次第です。

特に本日ご出席の宇佐美凱義かつさんと中山正浩さんには、長年にわたり北京の北方工業大学に留学中の本学学生に対しまして、現地主事としてご尽力頂き、心よりお礼申し上げます。

今回、私がこうして皆様とお会いし交流をする目的は、只今申し上げましたように、これまで母校にご協力頂きました皆様に法人として感謝を申し上げたかった事が一つです。二つ目は、法人が今、母校発展のために取り組んでおります状況をご報告し、ご理解を頂きたいということでもあります。

私は、理事長就任時に拓大発展のための3つの旗を掲げました。

第1は本学建学の教育理念であり、また、今日の日本が最も必要とされているところのいわゆる「世界で活躍できるグローバル人材の育成強化」であります。

本学は今から約30年前、高瀬総長の時代、棕木瑳磨太、中山正敏とし、小川哲雄の諸先輩のご尽力により、他大学に先駆け、グローバル人材育成のために中国をはじめ、台湾、カナダ、スペイン等に留学のための提携校をつくって今日まで来ておりますが、今や時代の要請でどこの大学も本学の制度に追いつき追い越しているのが実情であります。

私は、この際、海外で活躍されている卒業生の皆さんと連携し、ご協力頂きながら更なる「拓大的グローバル人材育成のシステム」を構築したいと思っております。

先般、72期の高橋博史さんがアフガニスタン大使に、同じく72期の沼田幹男さんがミャンマー大使に任命されたことは、本学の国際的評価を高める大変喜ばしいことでもあります。

2つ目は、現在、少子化のもと大学間競争のなかで展開されております都心回帰現象への対応として文京キャンパスの再開発事業の展開です。

既に、明治、法政、東洋、國學院、そして来年4月からは青山学院大学が都心回帰を実現し、多くの学生を集めております。

2006年から始まった本学の再開発事業も、この10月からはいよいよ最終ステージとなる第3ステージの工事が開始され、2015年3月には完了となります。そして2015年4月からは、八王子と文京、両キャンパスの再編により文京キャンパスでは約40年ぶりに商学部・政経学部が1年から4年まで同一キャンパスで学ぶこととなります。

従って、八王子キャンパスでは、外国語学部・国際学部・工学部の3学部と商学部・政経学部の体育部所属学生（400～500名）が、充実した課外活動施設と寮（新たに本年4月に400名収容の「カレッジハウス扶桑」が完成）を備えた豊かで充実した環境のもとで学生生活を送ることとなります。

これは、法人にとってこれからの百年を見据えた一大事業であり、卒業生の皆さんにもご協力をお願いしているところです。

3つ目は、先程、赤澤会長から紹介がありました様に拓大関係者がオリンピックで活躍しております。体育の振興強化を計って「強く逞しい拓大」を社会に発信することです。

以上の3つの目標、「旗印」を掲げて学友会及び後援会のご協力とご支援のもとに、本学が百年の歴史と価値のある私学であることを具現化して行きたいと思っておりますので、本日、ご出席の皆様にも、どうぞご理解の上、更なるご協力とご支援の程お願い申し上げる次第です。

最後になりましたが、戦前、ここ中国で活躍された先輩の一人、入江<sup>いりえ</sup>湊<sup>みなと</sup>先輩についてご紹介したいと思います。

入江先輩は、明治40年に本学を卒業後、横浜正金銀行、後の東京銀行に入行され辛亥革命前後の7年間を北京、のちに最も反日排日運動の激しかった揚子江一帯にある漢口に移り、日本の全ての銀行が引き上げた後も、自ら中国人同業者

の支援のもとに漢口銀行を設立し、困難のなかにも現地中国人の信頼を得て在留邦人の頼れる存在であったと言われております。

戦後昭和23年12月に日本に引き揚げるまで約40年を中国で過ごし、昭和30年から5期10年間本学学友会の会長を務められました。

その入江先輩が昭和28年2月に本学の校名が「紅陵大学」から「拓殖大学」に復旧されたことについて次の様に述べております。

「拓大は、台湾協会と称して発足して以来、聊<sup>いささ</sup>かも他民族を侵略する等<sup>などとい</sup>云ふ下卑<sup>げび</sup>た考えは持って居ない。立遅れて居る亜細亜各民族に文化の光を与へ、其生活を向上させようと云ふ高遠な主旨であった。拓大出身者は海外に於て、兄弟の様に親和し純真にして、赤裸々、小節に屈せず如何なる場所、如何なる地位にも、与へらるゝまゝ、好き嫌いを云はず、黙々として、其業に専念する、世にも人にも媚びず多少鈍重の嫌いあるも、物に動じない立派な態度で、亜細亜の隅々に活躍して居った。」

今日、ご存知通り、我が国を取り巻く環境は内外ともに厳しいものがあります。しかし、私達の先輩が築いてきた「海外にあって現地の人々に謙虚にして親切、大らかにして威武<sup>いぶ</sup>に屈せず、世のため人のために尽くす」という厳しくも尊い道を後輩である私達も歩みたいものと願っているところです。

本日、ご出席皆様の更なるご精進とご健勝を祈念申し上げ、私のご挨拶と近況報告とさせていただきます。

ご静聴有難うございました。